

県知事盃。加藤さん先陣切り、堂々の連覇(ミッドクイーンズの部)

下野新聞社の主催で、今年で 60 回を迎えた栃木県知事盃ゴルフ競技大会の一般女子、ミッドクイーンズの部の決勝が 9 月 4 日(木)、合わせて 76 選手が参加して、塩原カントリークラブで開催された。

ミッドクイーンズの部で当クラブの加藤仁美さん 70(34,36)の好スコアで、去年に続 2 連覇を飾った。一般女子では、土屋オードリーさんが 73 で 4 位に入った。昨年の知事盃では男女 3 カテゴリーで優勝し、塩カン勢の気をはいたが、加藤さんの連覇は今年の先陣を切り開いた。

知事盃ゴルフではクイーンズの部が 9 月 19 日に鹿沼 72 カントリークラブ、一般男子シニアの部が 9 月 26 日にハーモニーヒルズゴルフクラブ、一般男子の部が 10 月 17 日に芳賀カントリークラブでそれぞれ、決勝大会が開催される。

*優勝の加藤さんに、『奮戦記』を寄せていただいた。



上記記事は下野新聞より抜粋(ホームページにも掲載しています)



【寄稿】

地の利、天の声に背中押されて。骨折乗り越え連覇。スタッフ、メンバー、研修仲間へ恩返し。



加藤仁美さん

昨年度、私は栃木県開催での大会で『当たり年』だと言われています。知事盃ではミッドクイーンズ優勝を皮切りにクイーンズに準優勝、そして栃木県女子オープンのシニアの部でローアマ、全日本女子アマ(パブリック)でも5位入賞でした。

私が塩原CCに入会したきっかけは、25年ほど前、那須塩原市に家族と休暇を過ごすために別荘を所有したことが始まりです。そして後に、同業者で主人や私が『ゴルフの師』と憧れた名匠、新津淳先生が『上手になるために塩原カントリークラブの入会』を強く推薦してくださったからです。

入会した頃の私は子育ての真っ盛り、仕事や日常が忙しくてゴルフができる余裕があまりなく、150キロ遠方の塩原CCにはたまに訪れるメンバーの一人でした。そして年齢を重ね環境やゴルファーとしての事情も変わり、今やゴルフの拠点が完全に那須塩原になりました。私のゴルフ成長度は塩原カントリーのコース難易度と相関しているような気がします。競技者として必要なコース状態や練習環境が現在の塩原CCに揃っているからだと思います。

さて、『当たり年』の翌年はどうなるものなのでしょうか？初戦の決勝、関東女子グランドシニアでは2位となり良かった様に思われたのですが、実はこの大会の二日目(6月11日)のプレイ中(11番)でカートの急停止事故に遭い、まさかの肋骨骨折と左肩亜脱臼に、ひたすら『ど根性』だけで2位から落ちない様に18ホールを終了したのでした。しかし、秋からのシーズンに暗雲、全治2ヶ月という診断。間に合うのかな？

9月4日、栃木県知事盃決勝。間に合いました。奇跡的に心配なく競技ができる体調に回復。誰よりもコースを知り尽くしている自分のマネジメントを信じ、時には天の声(新津師匠)を聞きながら、ひたすらホームコースに安心して、自分らしく冷静に穏やかにプレイができました。

塩原カントリークラブで開催の60回記念大会。この優勝やメンバーとしてのフィニッシュを、日頃お世話になっている塩原カントリーのスタッフの皆さま、クラブライフを共に楽しむメンバーの皆さま、そして競技ゴルフを研鑽する仲間である塩原女子研修会の皆さまに喜んでいただけて、少しでも恩返しができたなら嬉しいかぎりです。



【雑草博士のグリーン談義】

前宇都宮大学教授 小笠原 勝

芝地における雑草の化学的防除(7)

今回は雑草の防除方法のその2として「化学的防除」についてお話しします。化学的防除の中心は除草剤になりますが、除草剤の話をする前に、殺菌剤と殺虫剤についてもその歴史を簡単に紹介します。まず、殺菌剤です。那須岳山麓の殺生石付近に硫黄の採掘跡があります。硫黄は火薬やゴムなどの原料にもなりますが、かつては干し柿を作る際の燻蒸剤など、農業にも広く利用されていました。防腐剤としての硫黄の歴史は紀元前のメソポタミア文明やエジプト文明まで遡ることができ、人類は古くから硫黄の殺菌作用に気がついていたようです。また、1882年にフランスで作られたボルドー液は今でも使われている殺菌剤ですが、その中に銅が含まれています。硫黄や銅の他にも水銀が殺菌剤として利用されていました。こうして殺菌剤の歴史を紐解いてみると、殺菌剤が無機物(鉱物)から始まったことがわかります。

次に殺虫剤です。ヨーロッパでは17世紀末頃からタバコの粉末がナシの害虫防除に使われていました。殺虫剤といえば蚊取り線香です。蚊取り線香の原料は除虫菊で、わが国には1881年にノミ取り用として除虫菊の粉末がイギリスから輸入され、1886年には和歌山県で本格的に栽培されるようになりました。タバコにはニコチンが除虫菊にはピレトリンという殺虫成分が含まれており、これを人工的に作ったのが有機合成農薬(殺虫剤)です。

話は横道に外れてしまいましたが、日本の農薬のルーツを辿ると栃木県の足尾銅山が見えてきます。お金のことを昔は「お足」と呼んでいました。その名前の由来には諸説がありますが、銅銭に銅の採掘地の足尾の足のマークが刻印されていたことから、お金をお足というようになったと言われています。銅を精錬する過程でさまざまな副産物が出てきますが、その一つが砒酸鉛でした。砒酸鉛はコガネムシ類やハマキ類などの害虫に高い殺虫効果を示すことから、古河機械金属のグループ会社の日本農薬が1948年にヒ酸鉛を農薬として登録しました。現在は使われていませんが、これがわが国における戦後初の登録農薬です。足尾銅山は日本の工業だけでなく農業にも大きく貢献していたわけです。

殺菌剤と殺虫剤がそれぞれ鉱物と植物から始まることがわかりましたが、では除草剤は何に由来するのでしょうか。塩や酢が候補に挙げられますが、これらは高価で貴重なものであったことから、草取りには使われなかったと考えられます。もっぱら、テデトール(人力除草)でした。除草剤の歴史は紀元前に遡る殺菌剤や殺虫剤に比べて非常に新しく、最初に登場したのは1943年にイギリスで作られた2,4-Dです。2,4-Dは当初、植物ホルモンとして研究されていましたが、その後、宇都宮大学の竹松哲夫博士のグループによって土壌中の挙動や除草作用が解明され、除草剤としての有用性が見出されました。化学物質を土や葉っぱに撒いて雑草を枯らすということは、今では、当たり前



のこのように思われていますが、当時は極めて革新的なことでした。もし除草剤がなかったら、誰が酷暑の中で草取りをするのでしょうか。考えるだけでゾッとします。米不足なんて騒いでいられなかったと思います。きつい、汚い、危険の3Kは過去のものになりました。除草剤を用いた雑草防除はまさに農業における21世紀の技術革命といえます。

ゴルフ場においても然りです。昔は手取り除草でした。キャディーさん達が横一列になって草取りをしていましたが、今は除草剤を年に数回撒くだけで済むようになりました。かつては高嶺の花であったゴルフが今や国民的なスポーツにまで普及し得たのも除草剤に負うところ、極めて大といえます。今回はかなり脱線してしまいました。次回も引き続き除草剤の話をします。





【中里鉄也の目・Q&A】

Q：ボールが左側に飛んでしまいます。原因や改善方法が知りたいです。

A：左に飛ぶ症状は、真っ直ぐ左に飛ぶ場合と、左に巻くように飛ぶ場合で原因が違いますので、それぞれ説明していきます。

今回は、真っ直ぐ左に飛んでしまう場合について説明します。

【原因】

●アウトサイドインの軌道

ダウンスイングでクラブヘッドが体の外側(アウトサイド)から下りてきて、内側(インサイド)へ振り抜く軌道。この軌道に対してフェースがスクエア、もしくは閉じている(クローズ)と、ボールが左に飛び出します。特に、フェースが閉じている場合は、さらに左に大きく曲がる「プルフック」という最悪のミスにつながります。

●上半身の開き

インパクト時に肩や腰が早く開きすぎると、クラブフェースが閉じやすくなり、引っ掛けの原因になります。

●体の軸のブレ

スイング中に頭が上下左右に動くと、体の軸がブレてスイング軌道が不安定になり、引っ掛けやすくなります。

●手首の使いすぎ(手打ち)

体の回転を使わず、腕や手だけでクラブを振ってしまうと、インパクトでフェースが急激に返り、左に飛んでしまいます。

●グリップの握り方

左手の甲が見えすぎる「ストロンググリップ」になっていると、フェースが閉じやすくなります。

【改善方法】

●インサイドアウトの軌道を意識する

ダウンスイングでクラブが体の内側から下りてくるイメージを持つことで、アウトサイドインの軌道を修正します。練習方法としては、ボールの右下と左上にボールを置いて、真ん中のボールだけを打つドリルが効果的です。

●体の回転を意識する

腕や手だけで振るのではなく、腰や肩の回転を使い、体全体でスイングするように意識します。インパクト後も体を開きすぎず、胸が正面を向くように心がけましょう。

●グリップの見直し

左手の甲があまり見えない「スクエアグリップ」や、手のひらではなく指で握る「フィンガーグリップ」にすることで、フェースの向きをコントロールしやすくなります。

●フィニッシュを高くする

フォロースルーでクラブを体の外側(アウトサイド)に振り抜くイメージを持ち、フィニッシュを高く取るように意識すると、内側に振りすぎる動きを抑えられます。

●体の軸を安定させる

アドレスからインパクトまで、頭の位置をできるだけ動かさないように意識します。

まずは、どのように左にとんでいくのかをよく観察してみましょう。

次回は、左に巻くように飛んでしまう場合について説明します！



45歳以上の初心者が対象。一日ゴルフスクール・ワンデーズを開催。

9月9日に塩原カントリークラブで3回目となるWAGゴルフスクールが開催され、11名が参加した。このスクールはゴルフを「始める」「復帰する」「継続する」、そしてゴルフを通じてコミュニティ作りのきっかけしてもらうため、プロのティーチングコーチを派遣して開講された。



編集後記

これをブーメランと言う。約5ヶ月間の党内抗争の末に辞任した石破茂総理大臣のことである。2007年の参議院選挙での敗北直後、続投を表明した安倍総裁に明確な反省を迫り辞任論を展開した。今回はそれが戻ってきて自爆した形だ。この人は正論をはく割には、実行力に欠けた。あの人間ブルトナーこと故田中角栄元首相を師匠と口にするのに一だ。その正論は自分を印象づける保身のためだけだったのか。大臣時代の地方創生、農水大臣のころのコメ増産への政策転換。だから中途半端だった。さて、ポスト石破は誰なのか。秋色深まる天にも、すぐには予想がつくまい。

井上 安正